

大会時・コロナ禍での取組

- ・ 自社は観光バス等の運送業であるため、東京2020大会の開催を見込んで、バスによる大規模な観戦客の送迎等の準備を進めていた（大会延期・無観客開催となり全て中止）
- ・ 2018年：大会でバスの送迎を大規模に行うため、人流増加や交通規制に対応すべく取組の検討を開始
- ・ 2021年：大会が延期になるも送迎バス等を準備

人の流れ

きっかけ

 以前より実施 オリバラ コロナ禍

- 営業活動等の自粛・・・大会期間中は送迎バス等を100台程動かす予定でドライバーも確保

□ その他取組

- ・ 新型コロナウイルスの感染リスクを軽減するため、事務所に3人常駐していた「運行管理者」を1名とし、ローテーションを組んで1名ずつ交代で管理するという手法に変更
- ・ ドライバーについても、以前は、全員定時（9時）出勤が義務付けられていたが、事務所内の密を解消するため、各々が担当するバスの出庫時間1時間前に出勤するよう規則を変更

物の流れ

きっかけ

 以前より実施 オリバラ コロナ禍

- 大会用のバスの運行は、大会延期と無観客開催により中止

□ 運行ルートの見直し

通常のバスの運行について、東京都から交通規制の情報を入手し、改めて運行ルートを作成

今後の取組

人の流れ

継続して取組を実施予定

- 運行管理者の常駐人数、及びドライバーの出勤時間については、今後も継続

取組ポイント

- 事前に台数およびドライバーを確保
- 常駐システムをローテーションの交代制に変更
- 出社時間の変更も規則に規定

取組ポイント

- 大会に備え、事前に取組の検討を開始

物の流れ

今後、東京2020大会のような大きなイベントがある際には、今回と同様、交通規制箇所の情報を予め取得し、運行ルートを決定

【東京2020大会を振り返って】

- ・ 東京2020大会が延期・無観客開催となったため、バスの運行がなくなり、ドライバーも不要となった。このため、政府に休業申請を行い、助成金によってドライバーの人件費を補填した。
- ・ 個別コンサルティングにより、事前に交通規制がかかる箇所を確認した。また、東京都HPでも交通規制に関する情報が公開されていたため、東京2020大会時でもスムーズな運行ができた。
- ・ 東京2020大会の開会式、及び閉会式の際には、晴海大橋が封鎖されていたが、この情報は個別コンサルティングの際には知らされていなかった。晴海大橋は、イオン東雲店から発車しているシャトルバスのルートに当たり、当日に封鎖されていることを知ったため、急遽ルートを変更することになった。